

## <分担研究報告>

# 小児期の成長・発達と養育条件に関する 医学的、心理学的及び社会学的研究

分担研究者 高野 陽

家庭における養育機能の低下が指摘されているが、それに伴う小児の心身の健康障害の実態については、現在、必ずしも明らかにされているとはいえず、小児期の各時期における養育を向上させるべく、多領域からの多角的な研究に基づく総合的な対策の確立が必要となっている。

この見地からの研究を主任研究者から要請され、養育条件がもたらす小児期各期における成長・発達状態及び健康状態に対する影響を、

- ①乳幼児の食生活に影響する養育条件、
- ②乳幼児の健康及び発達に影響する環境条件、
- ③父母の養育態度形成に影響する条件、
- ④拙悪な親子関係の社会病理的条件、
- ⑤自閉症発生予防と養育条件、
- ⑥小児期の精神保健に影響する養育条件、
- ⑦思春期小児の健康に影響する養育条件、
- ⑧小児の成長に影響する地域条件、

などの視点から、8課題の研究班を編成し、初年度は、各領域における実態把握を中心とした研究が行われ、次年度以降は、その把握された実態に基づいて、それぞれの立場から専門的分析検討がなされ、さらに、それに対応すべき総合的な保健指導に向けてのガイドラインの設定に発展できるよう研究計画を設定した。

本年度における研究成果の概要は、以下に示す通りである。なお、( )は研究協力者名である。

### I. 乳幼児の食行動に影響を及ぼす養育条件に関する研究(八倉巻和子)

乳幼児の食行動における養育者の影響を把握するため、全国5地域の幼稚園・保育所児童を対象に、その母に対し、質問紙調査を行った。食事上の問題を多くかかえている母親では、児に対する養育に関して必ずしもよい状態にあるとはいえず、その児には、咀嚼・嚥下や箸の用

い方までが発達していないものがある。しかし、質問紙調査での限界から、次年度では観察による研究を計画している。

### II. 乳幼児の健康及び発達に影響を及ぼす社会環境的条件に関する研究(高城義太郎)

乳幼児の健康や発達状態と環境条件との関連に関する体系的かつ総合的分析は少ない。都市中心部・新興住宅地及び住宅農業兼用地など地域性の異なる地域に住む乳幼児を対象に、その健康状態、事故発生や遊びの実態、さらにその母の地域組織や近隣との対人関係などに関して検討し、環境の一つとしての住居環境と乳幼児の健康や発達との関係においての多くの問題が見出されている。その問題は、そこに住む「人」の意識が重要な因子として発生しているものであると指摘している。

### III. 父母の養育態度の形成とその評価に関する研究(高橋種昭)

未熟な親や父性・母性不在など多くの問題が近年指摘されているが、従来、余り研究されていない「父親」に焦点をあて、現在の父子関係・家族のなかの父親の役割、父性のあり方について、文献的考察、質問紙による調査を行い、医療保健関係の現場においては、父子関係の重要性を認識するようになって、各種の保健指導の実施が次第に多くなりつつあることが示唆され、また、父親の育児参加も家庭の状況によって量的・質的に異なっていることが報告されている。

### IV. 親子関係の失調に関する社会病理的研究(松井一郎)

被虐待児と愛情剥奪(遮断)症候群に関して、医療機関における把握例について実態調査し、その発生予防の効果的対策確立を目的としてい

る。

226例の症例が報告されており、家庭環境の複雑な要因がその発生に関係していることはいうまでもないが、低出生体重児や家庭以外で養育されたものや食事に関する養育放棄がなされたり、脳損傷を伴う傷害を受けているものが多いことが把握されている。

#### V. 自閉症の発症予防における臨界齢に関する研究（瀬川昌也）

自閉症の概念は、時代とともに変遷し、研究者によって多少の差異があるが、乳児期早期に発症し、男児に多く、環境条件・養育条件の影響を受け、根幹症状に年齢依存性があるという基本的考え方のもとに、5HTP及びL-Dopa投与による自閉症治療効果判定、自閉症児のCT像の解明、セロトニン系のサーカディアンリズム発達への影響の究明、大脳皮質とセロトニンニューロンとの関連についての動物実験、脳幹の刺激と筋緊張に関係をネコによって究明するまで、多領域からの基礎的研究を実施している。

#### VI. かかわりの発達とその歪みに関する研究（岡 宏子）

近年話題になっている小児の問題行動の根底には、子どもの「人とのかかわり方」の未熟性や歪みがあるとして、その「かかわり」の発達と幼少期からの家庭の養育条件や、さらに、その後の小児各期における問題との関係についての分析が少ないことに着目して、保育所・幼稚園における乳幼児、学齢期小児さらに、非行少年を対象として、その幼児期からの養育条件と「かかわり」との関係について追究しており、幼児期からすでに、親の望ましくない養育態度が、「人とのかかわり方」に問題が生じていることを指摘している。

#### VII. 思春期小児の健康に対する家庭保護のあり方に関する研究（村田光範）

思春期小児の、心身の健康問題や社会的問題を適確に把握して、家庭においても十分に対応できる対策の確立を目的とした研究である。

まず、思春期の具体的捉らえ方を検討するこ

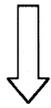
とからはじまり、動脈硬化や肥満などの成人病の一次予防に関する研究、精神衛生的問題に関する質問紙による評価の検討、性行動については若年妊娠に焦点をあてた研究、食生活と健康の関係を中学生の食生活と愁訴から検討して、これらの結果に基づいて問題に対応するための家庭でできる具体的指針づくりに及ぼうとしている。

#### VIII. 小児の成長の地域差に関する研究（東郷正美）

小児の成長は、遺伝と環境因子の影響を受けるが、環境因子としての地域の条件の影響を研究し、地域保健とのつながりを考える。

本研究では、発育の地域差の研究を歴史的に検討し、加えて、学齢期小児の身体発育の地域差を都道府県別に、昭和60年に17歳であるものについて、出生時・6歳時及び17歳時の体位を比較検討し、さらに、群馬県農山村と東京都の小児の発育速度を個々に求めて検討し、両地域における地域特性との関連で調べている。また、発育評価の指標とする身体計測値の保存状況について調べ、有効活用を求めている。

以上、乳児期から思春期に至るまでの小児各期における心身の健康や成長・発達に関して、多角的かつ学際的研究を通して、家庭や地域の養育機能の向上を図る視点から、それぞれが関与すべき事項を検討してきた。本年度は、初年度ではあるが、研究協力者の熱心な精力的な研究が、ここに示されたものと考えており、次年度以降の研究に期待するとともに、母子保健行政への反映を望むものである。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



家庭における養育機能の低下が指摘されているが、それに伴う小児の心身の健康障害の実態については、現在、必ずしも明らかにされているとはいえ、小児期の各時期における養育を向上させるべく、多領域からの多角的な研究に基づく総合的な対策の確立が必要となっている。

この見地からの研究を主任研究者から要請され、養育条件がもたらす小児期各期における成長・発達状態及び健康状態に対する影響を、

乳幼児の食生活に影響する養育条件、

乳幼児の健康及び発達に影響する環境条件、

父母の養育態度形成に影響する条件、

拙悪な親子関係の社会病理的条件、

自閉症発生予防と養育条件、

小児期の精神保健に影響する養育条件、

思春期小児の健康に影響する養育条件、

小児の成長に影響する地域条件、

などの視点から、8 課題の研究班を編成し、初年度は、各領域における実態把握を中心とした研究が行われ、次年度以降は、その把握された実態に基づいて、それぞれの立場から専門的分析検討がなされ、さらに、それに対応すべき総合的な保健指導に向けてのガイドラインの設定に発展できるよう研究計画を設定した。

本年度における研究成果の概要は、以下に示す通りである。なお、( )は研究協力者名である。